

令和4年度

## 第2回学校運営協議会

### 第2回 学校関係者評価委員会資料

学校評価 児童中間アンケートの結果より

期間:8月30日(火)～ 9月12日(月)

対象:1年生～6年生 454名

形式:質問紙調査による調査(4件法)

項目:「学習」「生活」「仲間・健康」「学校」の4項目



令和4年10月28日

生駒市立俵口小学校

# 1～2年 子どもアンケート

じぶんのことをおもいだして、こたえましょう。あてはまるばんごうに○をつけましょう。

	おもいだすこと	そうおも う	だいたい そうおも う	あまりそ うおもわ ない	そうおも わない	
が く し ゅ う	1-①	かていがくしゅうを がんばった。	4	3	2	1
	1-②	かていがくしゅうとして、1ねんせい は20ぶんかん、2ねんせいは30ぶん かん、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③	じぶんの かんがえたことを、ノート やプリントに かくことができた。	4	3	2	1
	1-④	がくしゅうしたくないようが、どんな ないようだったか わかった。	4	3	2	1
	1-⑤	じぶんのかんがえを、クラスのともし だちに わかりやすく はなすことがで きた。	4	3	2	1
	1-⑥	じゅぎょうちゅうは、せきにすわって がくしゅうした。	4	3	2	1
せ い か つ	2-①	がっこうせいかつの きまりや こう つうルール、ともだちとの やくそく をまもった。	4	3	2	1
	2-②	がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに ていねいなことばを つけた。	4	3	2	1
	2-③	ふれあいタイムで ちがうがくねんの ひとと きょうりよくすることができ た。	4	3	2	1
	2-④	年下(としました)の子(こ)をだいに し、年下(としました)の子(こ)から し たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	ろうかを ただしくあるいた。	4	3	2	1
	2-⑥	がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに きもちのよいあいさつ をした。	4	3	2	1
	2-⑦	おしゃべりをせずに、しっかりと そ うじをした。	4	3	2	1

なまえ ( )

なかま・けんこう	3-①	がっきゅうかいで よくかんがえて じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-②	ひとのいけんを よくきいてから、じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには どうしたらよいかをかんがえてこうどうできた。	4	3	2	1
	3-④	きもちよく がっこうせいかつをおくるためには どうしたらよいかをかんがえて、いいんかいかつどうを おこなった。				
	3-⑤	たいいくのじかんには、しっかりとからだをうごかして うんどうした。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、たのしみながらからだをうごかした。	4	3	2	1
	3-⑦	やすみじかんには、そとにでてあそんだり からだをうごかしたりした。	4	3	2	1
がっこう	4-①	がっこうはたのしい。	4	3	2	1
	4-②	じぶんはひとのやくに たっているとおもう。	4	3	2	1
	4-③	あいてのきもちをかんがえてこうどうしている。	4	3	2	1
	4-④	ちゅういされたときはすなおにはなしをきくことができる。	4	3	2	1
		 こまったことがあれば かきましょう。				

# 3～4年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまるばんごうに○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-① 朝の学習やかてい学習をがんばった。	4	3	2	1
	1-② かつてい学習として、3年生は40分間、4年生は50分間、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③ 自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④ 学習した内ようが、どんな内ようだったか分かった。	4	3	2	1
	1-⑤ 自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥ じゅぎょう中は、せきにすわって学習した。	4	3	2	1
生 か つ	2-① 学校生かつのきまりや交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-② 学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで、ちがう学年の人ときょう力することができた。	4	3	2	1
	2-④ 年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ ろうかを正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥ 学校の先生、友だち、近所の人に、気もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりとそうじをした。	4	3	2	1

なまえ ( )

なかま・けんこう	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよくきいてから、自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには、どうしたらよいかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。				
	3-⑤	体いくの時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出てあそんだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、すなおに話をきくことができる。	4	3	2	1
		こまったことがあれば かきましょう。				

# 5～6年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	
学 習	1-①	朝の学習や家庭学習をわすれずにする ことをがんばった。	4	3	2	1
	1-②	家庭学習として、5年生は60分間、6 年生は70分間、勉強することができ た。	4	3	2	1
	1-③	自分の考えたことを、ノートやプリン トに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④	学習した内容が、どんな内ようだった か分かった。	4	3	2	1
	1-⑤	自分の考えを、クラスの友だちに分か りやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥	授業中は、席に着いて学習した。	4	3	2	1
生 活	2-①	学校生活のきまりや交通ルール、友だ ちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、て いねいな言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③	ふれあいタイムで、ちがう学年の人と 協力することができた。	4	3	2	1
	2-④	年下の子を大事にし、年下の子からし たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	廊下を正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥	学校の先生、友だち、近所の人に、気 もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦	おしゃべりをせずに、しっかりとそう じをした。	4	3	2	1

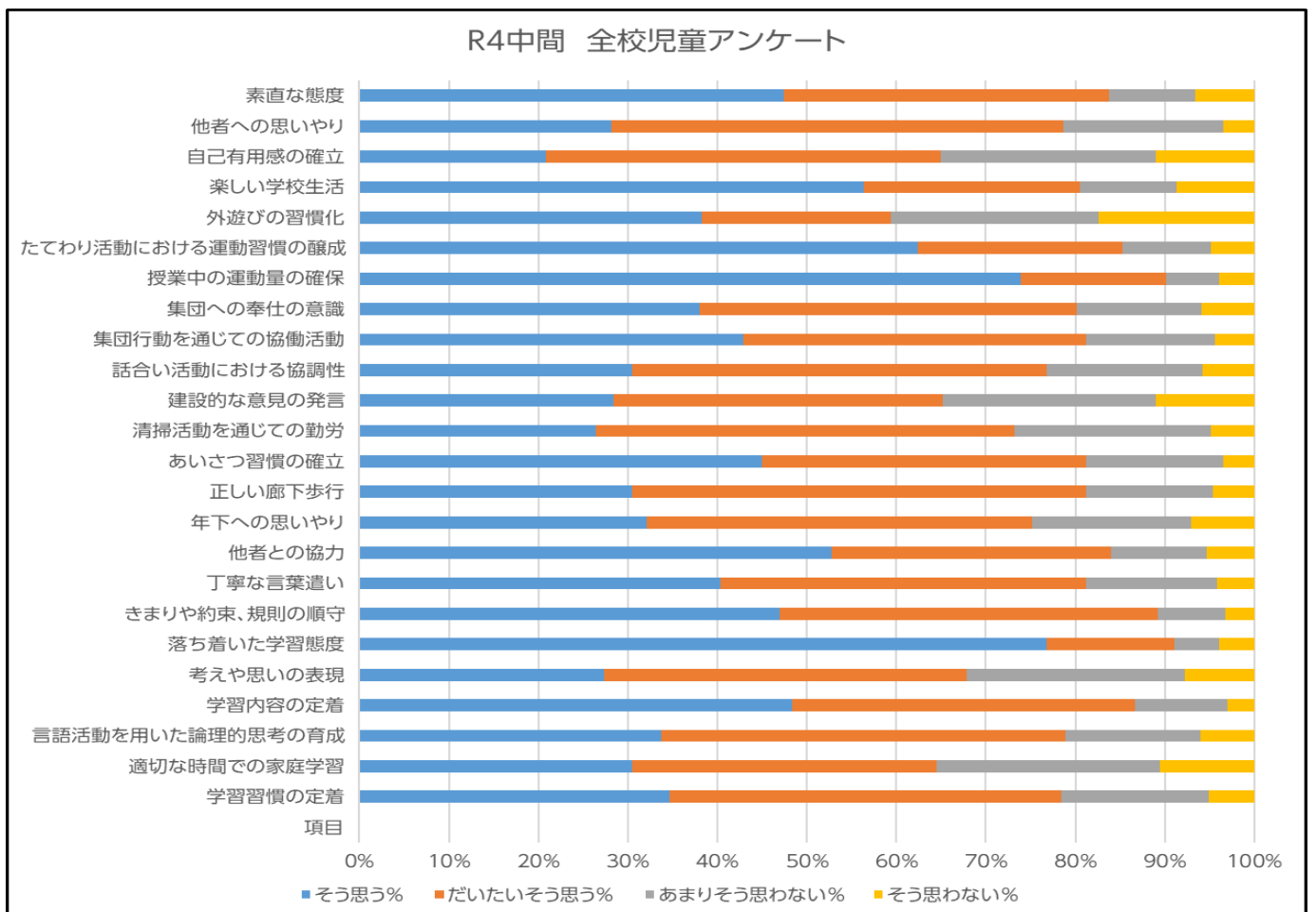
なまえ ( )

仲間・健康	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよく聞いてから、自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。	4	3	2	1
	3-⑤	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、素直に話を聞くことができる。	4	3	2	1
		困ったことがあれば 書きましょう。				



R4中間 全校児童アンケート

分類	番号	全校	そう思う%	だいたいそ う思う%	あまりそ う思わない%	そう思わ ない%
		項目				
学 習	1-①	学習習慣の定着	35	44	17	5
	1-②	適切な時間での家庭学習	31	34	25	11
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	34	45	15	6
	1-④	学習内容の定着	48	38	10	3
	1-⑤	考えや思いの表現	27	41	24	8
	1-⑥	落ち着いた学習態度	77	14	5	4
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	47	42	8	3
	2-②	丁寧な言葉遣い	40	41	15	4
	2-③	他者との協力	53	31	11	5
	2-④	年下への思いやり	32	43	18	7
	2-⑤	正しい廊下歩行	31	51	14	5
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	45	36	15	3
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	26	47	22	5
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言	28	37	24	11
	3-②	話し合い活動における協調性	31	46	17	6
	3-③	集団行動を通じての協働活動	43	38	14	4
	3-④	集団への奉仕の意識	38	42	14	6
	3-⑤	授業中の運動量の確保	74	16	6	4
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	62	23	10	5
	3-⑦	外遊びの習慣化	38	21	23	17
学 校	4-①	楽しい学校生活	56	24	11	9
	4-②	自己有用感の確立	21	44	24	11
	4-③	他者への思いやり	28	50	18	3
	4-④	素直な態度	47	36	10	7





## 考察

・今回の中間アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だった項目は、「学習内容の定着」「落ち着いた学習態度」「きまりや約束、規則の順守」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」の5つで、いずれも85%以上の児童が肯定的な評価をしている。特に授業中は席に着いて学習したという「落ち着いた学習態度」は9割以上の児童が肯定的な評価をしており、すべての学年で高い達成率であった。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが必要不可欠であり、その点では一定の達成は見られたと思われる。後半の教育活動においてもこの点を大事にして教育活動を進めていきたい。

「きまりや約束、規則の順守」と「授業中の運動量の確保」の2つについては、昨年度、一昨年度のアンケートでも肯定的意見の割合が高かった項目である。「『学校生活のきまり』や『交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ』を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させる。」「体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。」については、今年度の前半の教育活動において目標を達成したように思われる。しかしながら、廊下歩行や制服の着用等で指導が必要な場面を校内に散見する。また、一昨年度のアンケートでは、この2つの項目は肯定的意見の割合が90%を超えていたことも踏まえ、後半の教育活動において、「きまりや約束、規則の順守」については、どの学年でも肯定的な回答が増えるように指導の強化を図っていきたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は1年生で、23項目中22項目で肯定的な評価をしている。次いで肯定的な回答が多い学年は2年生で、23項目中20項目で肯定的な評価をしている。昨年度と比べると、6年生以外の5つの学年で肯定的意見の割合が高い項目が増加しており、今年度の前半の教育活動は、昨年度の同時期と比べると良い状態であったと思われる。しかしながら、昨年度、一昨年度の調査と同様に、低学年ほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、学年が上がるにつれてその数が減る傾向にあり、まだまだ改善していかなければならないと考える。「学習習慣の定着」「清掃活動を通じての勤労」については、多くの学年で昨年度と比べて肯定的意見の割合が減少している。後半の教育活動において重点的に取り組み、改善を図るべき項目であると考えます。

全校			肯定意見 (%)	否定意見 (%)
分類	番号	項目		
学習	1-①	学習習慣の定着	78	22
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	36
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	79	21
	1-④	学習内容の定着	87	13
	1-⑤	考えや思いの表現	68	32
	1-⑥	落ち着いた学習態度	91	9
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	89	11
	2-②	丁寧な言葉遣い	81	19
	2-③	他者との協力	84	16
	2-④	年下への思いやり	75	25
	2-⑤	正しい廊下歩行	81	19
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	81	19
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	73	27
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	65	35
	3-②	話し合い活動における協調性	77	23
	3-③	集団行動を通じての協働活動	81	19
	3-④	集団への奉仕の意識	80	20
	3-⑤	授業中の運動量の確保	90	10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	85	15
	3-⑦	外遊びの習慣化	59	41
学校	4-①	楽しい学校生活	81	19
	4-②	自己有用感の確立	65	35
	4-③	他者への思いやり	79	21
	4-④	素直な態度	84	16

改善が必要な項目

改善が必要でない項目

肯定的意見90～100%

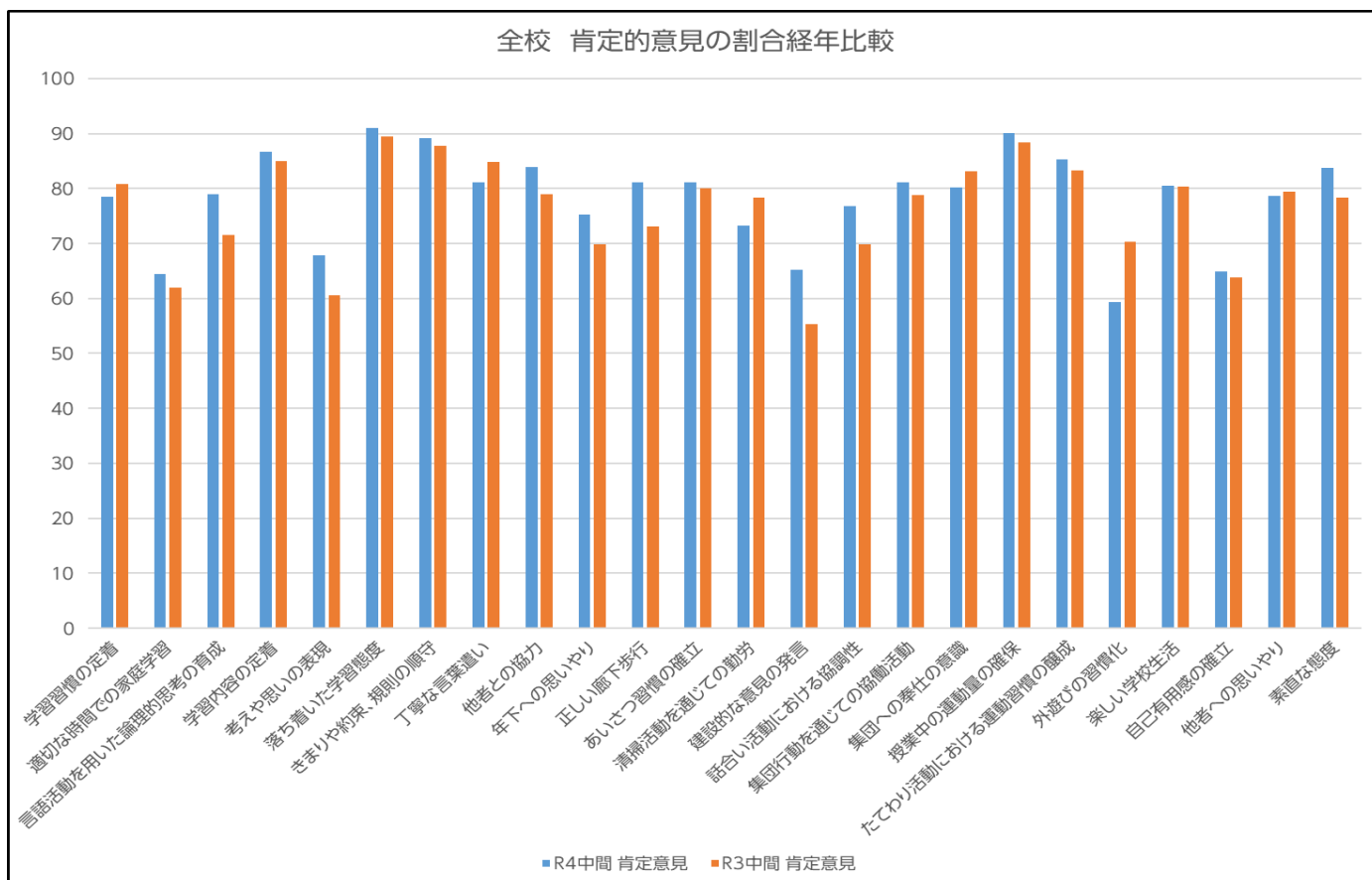
肯定的意見80%以上

否定的意見41%以上

否定的意見31%以上

否定的意見21～30%

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「考えや思いの表現」「建設的な意見の発言」「外遊びの習慣化」「自己有用感の確立」の5項目であった。「外遊びの習慣化」を除く4項目については、昨年度も否定的意見の割合が高く、俵口小学校の教育活動を推進するうえで、重点課題であるとする。今年度、否定的意見の割合が高くなった「外遊びの習慣化」は、昨年度と比べて11ポイント下降している。今までは、高学年については達成率が低かったものの低学年では達成率は高い状態であり、改善を図る対象も高学年との認識であった。しかし、今年度はすべての学年で達成率が芳しくない結果となり、全校的な改善が必要であるとする。ここ数年、課題として挙がっている自己肯定感や自主性の醸成は、「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」の項目で否定的意見の割合が高いことから、今年度も本校の課題であるといえる。また、家庭学習時間についても、「適切な時間での家庭学習」の項目において昨年度よりも若干、改善はされているものの、依然、達成率は低く、改善が図られなければならない課題といえる。昨年度よりは改善されているが、「建設的な意見の発言」は3.5割の児童が否定的意見として回答している。「考えや思いの表現」の項目で3割以上の児童が否定的意見として回答していることを合わせて考えると、まだまだ思考・判断・表現の育成といった点で取組に弱さがあると考えられる。後期の教育活動において改善が必要であり、児童の思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた教育活動を実践する必要がある。日々の授業や学級会をはじめとした特別活動、委員会活動やクラブ活動、たてわり活動など様々な教育活動において、この点を意識して取り組むことが必要と思われる。「自己有用感の確立」の2項目は、35%の児童が否定的な回答をしている。「自己有用感の確立」の項目については、学年が上がるにつれて否定的意見の割合が高くなっており、中でも4年生は5割を超える児童が否定的意見として回答していて、注意が必要である。「集団への奉仕の意識」の項目では8割の児童が肯定的意見として回答していることを踏まえ考えると、委員会活動等では充実した活動が行われていると思われる。今後は、たてわり活動においてリーダー的な役割を果たすことで、高学年の児童が自己有用感を得られるように活動を支援していくと共に、4年生の児童が自己有用感を感じられるような取組の強化を図っていく必要があると思われる。また、たてわり活動の充実を図ることで、どの学年の児童も自己有用感を高めていきたいと考える。



# 各項目の考察

R4 中間 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)							否定的意見(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-①	学習習慣の定着	87	88	74	79	70	75	78	13	12	26	21	30	25	22
	1-②	適切な時間での家庭学習	80	87	73	56	47	50	64	20	13	27	44	53	50	36
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	82	83	85	77	77	72	79	18	17	15	23	23	28	21
	1-④	学習内容の定着	87	86	86	85	90	86	87	13	14	14	15	10	14	13
	1-⑤	考えや思いの表現	82	74	62	64	67	61	68	18	26	38	36	33	39	32
	1-⑥	落ち着いた学習態度	95	92	92	89	91	88	91	5	8	8	11	9	12	9
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	98	95	85	85	87	86	89	2	5	15	15	13	14	11
	2-②	丁寧な言葉遣い	85	86	80	85	81	73	81	15	14	20	15	19	27	19
	2-③	他者との協力	90	95	85	79	77	79	84	10	5	15	21	23	21	16
	2-④	年下への思いやり	85	88	70	62	70	75	75	15	12	30	38	30	25	25
	2-⑤	正しい廊下歩行	90	94	80	66	80	77	81	10	6	20	34	20	23	19
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	85	92	80	77	82	72	81	15	8	20	23	18	28	19
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	83	83	79	54	68	71	73	17	17	21	46	32	29	27
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	88	77	71	59	54	49	65	12	23	29	41	46	51	35
	3-②	話し合い活動における協調性	83	94	73	70	70	72	77	17	6	27	30	30	28	23
	3-③	集団行動を通じての協働活動	87	91	77	77	76	79	81	13	9	23	23	24	21	19
	3-④	集団への奉仕の意識					84	77	80					16	23	20
	3-⑤	授業中の運動量の確保	100	99	92	89	84	82	90	0	1	8	11	16	18	10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	93	94	86	89	77	77	85	7	6	14	11	23	23	15
学校	3-⑦	外遊びの習慣化	70	79	67	62	41	45	59	30	21	33	38	59	55	41
	4-①	楽しい学校生活	93	90	80	70	75	76	81	7	10	20	30	25	24	19
	4-②	自己有用感の確立	82	81	64	46	57	61	65	18	19	36	54	43	39	35
	4-③	他者への思いやり	82	87	67	80	82	74	79	18	13	33	20	18	26	21
	4-④	素直な態度	90	85	85	87	82	77	84	10	15	15	13	18	23	16

改善が必要な項目

改善が必要でない項目

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が4以上

否定的意見の割合が3以上

否定的意見の割合が2～3

## 学習

### 【1-①学習習慣の定着】

・昨年度より肯定的意見が 3 ポイント下降している。低学年では 9 割近くの児童が肯定的に回答しているのに対して、3 年生以上の学年ではそれより 10 ポイント下の回答となっている。基礎学力の定着に学習習慣の定着が必要なことは言うまでもないことである。毎日の課題の点検や家庭への啓発の強化を講じる必要がある。

### 【1-②適切な時間での家庭学習】

・1 年と 5 年以外は経年比較で達成率が上がっているものの、昨年に引き続き、中学年、高学年で達成率が低い項目である。特に 4、5、6 年は約半数の児童が家庭学習の時間が足りていないということが明らかになった。先に行われた全国学力学習状況調査によると、生駒市の児童は、家庭学習時間が県や全国と比べて長いという結果であったが、本校の児童の半数近くは、学習時間が適切でないという結果になった。家庭学習の課題の提出について見直しを図っていかなければならないと考える。また、家庭学習の習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも理解してもらう必要があると考える。後半の教育活動において、学年だよりや個人懇談、学級通信等で家庭への啓発を強化していきたい。

### 【1-③言語活動を用いた論理的思考の育成】

・6 年以外では、経年比較で達成率が上がっている。経年比較で 10 ポイント以上の上昇が見られた学年も 3 学年あり、全校の達成率も、昨年度より 7 ポイント上昇して 79%となった。一昨年度より、書くこと

を大事にした学習活動を継続してきたことが、結果として表れてきているものと思われる。先の学習指導要領で、言語活動の充実を図ることの必要性が説かれたが、「書く活動」は論理的思考の育成だけでなく、深い学びの習得にも効果的である。今後の学習活動においても、ますます「書く活動」を取り入れ、論理的思考を授業で具現し、思考力・判断力の育成を図っていきたい。

#### 【1-④学習内容の定着】

・学習内容の定着については、ほとんどの学年で達成されており、前半の学習活動において、多くの児童が学習内容を理解することができたものと思われる。日々の学習活動において、基礎・基本の習得を徹底させてきた結果であると考えられる。また、ICTを活用した授業が、児童の学びをスムーズにしていることも要因の一つと思われる。前半の教育活動を基軸に、後半の教育活動においても、さらに発展的な内容や学習形態の工夫などに取り組んでいきたい。

#### 【1-⑤考えや思いの表現】

・すべての学年で昨年度よりも達成率の上昇が見られ、全校の達成率は、昨年度よりも7ポイント上昇した。今年度、「よりよく生きるための道徳性を養う道徳科の充実 ～学び合い自らの考えを広げ深められる指導の工夫を通して～」を校内研究の主題に設定して教育実践を行ってきたが、少しずつ結果として表れてきているものと思われる。しかしながら、依然、3年より上の学年の3割以上の児童は否定的に回答しており、今後も改善が必要な項目である。自分の考えや思いを表出するためには、自分の意見を受け止めてもらえるという安心感が不可欠である。引き続き、学級が児童にとって安心して自身を表出できる場になっているかを振り返り、学級活動等においてSSTやエンカウンターなどの活動を取り入れるなどして、児童が自分の考えや思いを表現できる場を意図的に創り出すことも考えていきたい。

#### 【1-⑥落ち着いた学習態度】

・全体的に達成率が高い項目である。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが前提であり、その点ではある一定の達成は見られたと思われる。低学年からの指導の積み重ねが、よい学習習慣の獲得につながっていると思われる。しかし、6年生においては、昨年度と比べて肯定的意見の割合が低く、後半の教育活動において改善を図るべき事項であると考えられる。

## 生活

#### 【2-①きまりや約束、規則の順守】

・すべての学年で肯定的意見の割合が高く、ほぼ達成されていると思われる。しかしながら、昨年度と比べると1ポイント上昇したものの、児童の様子を見ていると、廊下歩行や制服の正しい着用など、学校生活においてきちんとできていないことも見受けられる。生徒指導部からも提案のあったように、引き続き全教職員で児童を見守り支援していきたい。

#### 【2-②丁寧な言葉遣い】

・昨年度に比べて達成率で4ポイントの下降が見られる。特に、6年は昨年度と比べて肯定的意見が17ポイント減少しており、注意が必要である。時と場に応じた適切な受け答えができることは、他者との良好なコミュニケーション形成に有効であり、児童らに是非、身に付けさせたい事柄である。日々の学校生活においてその都度、指導していきたい。

### 【2-③他者との協力】

・昨年度と比べて5ポイントの上昇が見られた。しかし、低学年では9割以上の児童が肯定的に回答しているものの、4年以上では肯定的意見の割合が80%に満たないなど、学年間で肯定的意見の割合にばらつきが見られる。ふれあいタイムの活動時に、言葉がけなどの支援を強化していく必要があると思われる。後半の教育活動において改善を図りたい。

### 【2-④年下への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合は75%で、昨年度と比べて5ポイントの上昇が見られ、概ね達成されている項目である。しかし、4年は4割近くの児童が否定的に評価している。たてわり活動の充実を図り、道徳等で思いやりについて学習するなど、後半の教育活動において改善が必要である。

### 【2-⑤正しい廊下歩行】

・昨年度に比べて達成率で8ポイントの上昇が見られた。特に、1、2年生は肯定的意見の割合が9割以上と高い。しかし、休み時間などの様子を見ていると、必ずしもそうではない場面も見受けられる。また、4年生では否定的意見の割合が高い。「正しい廊下歩行」は本校の生徒指導の重点目標の一つであり、後半の教育活動において改善を図りたい。

### 【2-⑥あいさつ習慣の確立】

・全校の肯定的意見の割合は81%であり、多くの児童が挨拶はできていると感じている。しかしながら、自ら進んであいさつができる児童は少なく、今後は、自ら進んであいさつができる児童の育成をしていく必要があると思われる。地域や家庭にも協力を得ながら、児童が進んで気持ちのよい挨拶ができるように、指導を続けていきたい。

### 【2-⑦清掃活動を通じたの勤労】

・昨年度と比べて、達成率が5ポイント下降している。1、2年生は8割を超える児童が肯定評価しているが、それ以外の学年については肯定的意見の割合が8割を満たさず、4、5年については7割も満たさなかった。今一度おしゃべりせずに掃除するもくもく清掃の徹底を図り、後半の教育活動において、しっかりと清掃活動ができるように指導をしていきたい。

## 仲間・健康

### 【3-①建設的な意見の発言】

・昨年度と比べると、全校で10ポイントの上昇が見られた。「考えや思いの表現」の項目でも達成率が7ポイント上昇していることを合わせて考えると、取り組んできたことが少しずつ効果を上げてきているとも言える。特に1、2、3年では昨年度と比べて10～20ポイントの上昇が見られ、学級活動において活発に話し合い活動が行われたものと思われる。その反面、4年以上の高学年においては、昨年度と比べて達成率が上昇しているものの5割から6割弱の達成率であり、引き続き取組に注力していきたい。後半の教育活動において学級会をきちんと確保し、児童が自分の意見を述べる場を設定していく必要があると思われる。

### 【3-②話し合い活動における協調性】

・昨年度に比べて、全ての学年で肯定的意見の割合が上昇した。全校では7ポイントの上昇であり、特に



2 年は、昨年度よりも 24 ポイント上昇した。話し合い活動においては、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが必要であるが、それ以上に相手の話をしっかりと聞いて状況を正しく理解・判断することが大切である。しっかりと相手の話を聞くということは、思考力・判断力の育成にも関わることであり、今後の教育活動においてその点にも注意して指導を継続していきたい。

### 【3-③集団行動を通じた協働活動】

・全校の肯定的意見の割合が 81%であり、概ね達成できている項目といえる。しかしながら、昨年度と比べて肯定的意見の割合が上昇したのは、2、4 年の 2 学年で、他の学年は達成率が下降している。昨年度に比べて、学年間の肯定的意見の割合のばらつきは落ち着いたが、たてわり活動を中心とした教育活動全般にわたって他者意識の醸成に努め、全体的に達成率の上昇を目指していきたい。

### 【3-④集団への奉仕の意識】

・昨年度と比べて、肯定的意見の割合が 3 ポイント下降したものの全体で 80%の達成率であり、概ね達成した項目であるといえる。ほとんどの高学年の児童は、高学年としての自覚を持って委員会活動に参加していると思われる。後半の教育活動においても、児童に奉仕の気持ちをもって委員会活動を行っていることをしっかりと認識させ、自己有用感の獲得につなげたい。

### 【3-⑤授業中の運動量の確保】

・今年度も昨年度と同様に、すべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成できていると思われる。引き続き、体育の学習においてしっかりと運動量を確保し、児童の体力向上を図っていきたい。

### 【3-⑥たてわり活動における運動習慣の醸成】

・全校の肯定的意見の割合が 85%であり、概ね達成できている項目といえる。昨年度と比べて、達成率が低、中学年で上昇し、全校で 2 ポイント上昇した。しかしながら、高学年では下降しており、後半のたてわり班活動においては、この結果を踏まえて児童らに支援していく必要がある。

### 【3-⑦外遊びの習慣化】

・昨年度と比べて全校で 11 ポイントの下降が見られた。昨年度、一昨年度は、学年が上がるにつれて否定的意見の割合が高くなり、高学年はほぼ半数の児童が外遊びをしていないという結果であったが、低学年では 8 割を超す児童が外遊びをしていた。しかし、今年度は低学年でも肯定的意見の割合が 70%台にとどまり、高学年に至っては 4 割台の達成率であった。調査をした時期がコロナウイルス感染拡大の時期であったことも原因の一つと考えられるが、体力向上の観点からも、また、外遊びで適度に体を動かすことによって気持ちを切り替えて、その後の学習に集中して取り組むという点でも、外遊びの習慣化は達成させていきたい。ただ、高学年は委員会活動やその他の活動等で忙しい場合もあり、その点を配慮しながら学級遊びの設定など工夫して取り組んでいきたい。

## 学校

### 【4-①楽しい学校生活】

・昨年度と比べて、全校の達成率が 1 ポイント上昇した。しかし、1~3 年までの低学年と 4~6 年までの高学年で、評価に若干のばらつきが見られる。特に、4 年は 3 割の児童が否定的な回答をしており、注意が必要である。「楽しくない原因はどこにあるのか」といったことを常に問いかけ、児童の様子を注意深く

見守る必要があると思われる。

【4-②自己有用感の確立】

・昨年度に引き続き、否定的意見の割合が高く、後半の教育活動において改善が必要である。特に、4年の児童は、半数以上が否定的な評価をしている。「楽しい学校生活」の項目での評価も踏まえたうえで、後半の教育活動で改善を図らなければならないと考える。6年は、昨年度と比べて達成率が13ポイント上昇し、改善が図られている。しかし依然、4割近くの児童が否定的に回答しており、引き続き改善に取り組む必要がある。後半の教育活動において、委員会活動やクラブ活動、たてわり活動での支援に加え、学力向上の面からも自己肯定感を育てていく必要があると考える。

【4-③他者への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合は79%であり、昨年度の結果と変化はない。しかし学年間の評価をみると、2年で10ポイントの上昇、3年で10ポイントの下降、6年で8ポイントの下降が見られ、学年間のばらつきが昨年度よりも大きくなっている。学級指導や道徳の指導を通じて、引き続き、年少者への思いやりも含め、他者への思いやりを児童に育てていきたい。

【4-④素直な態度】

・昨年度に比べ、全体で6ポイントの上昇が見られ、6年以外の学年では昨年度と比べて肯定的意見の割合が増えていた。生徒指導部を中心にすべての教員が生徒指導の視点で児童と関わるなどの取組を続けてきた結果と思われる。素直さは、本校の児童の良さである。引き続き、道徳や学級活動等を通じて指導し、良さを伸ばすことで自己肯定感を育てていきたい。

分類	番号	項目	肯定的意見の経年比較 (%)													
			1年		2年		3年		4年		5年		6年		全校	
			R4中間	R3中間	R4中間	R3中間	R4中間	R3中間	R4中間	R3中間	R4中間	R3中間	R4中間	R3中間	R4中間	R3中間
学習	1-①	学習習慣の定着	87	88	88	82	74	80	79	78	70	79	75	78	78	81
	1-②	適切な時間での家庭学習	80	81	87	77	73	55	56	54	47	58	50	48	64	62
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	82	78	83	69	85	73	77	63	77	73	72	75	79	72
	1-④	学習内容の定着	87	78	86	82	86	86	85	85	90	88	86	90	87	85
	1-⑤	考えや思いの表現	82	74	74	68	62	61	64	57	67	55	61	52	68	61
	1-⑥	落ち着いた学習態度	95	88	92	84	92	84	89	91	91	92	88	96	91	89
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	98	94	95	89	85	83	85	84	87	86	86	91	89	88
	2-②	丁寧な言葉遣い	85	81	86	89	80	83	85	81	81	85	73	90	81	85
	2-③	他者との協力	90	91	95	77	85	75	79	68	77	81	79	83	84	79
	2-④	年下への思いやり	85	74	88	77	70	69	62	59	70	74	75	67	75	70
	2-⑤	正しい廊下歩行	90	84	94	72	80	69	66	73	80	69	77	74	81	73
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	85	87	92	80	80	84	77	80	82	77	72	74	81	80
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	83	93	83	73	79	75	54	77	68	76	71	78	73	78
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	88	76	77	57	71	52	59	59	54	46	49	43	65	55
	3-②	話し合い活動における協調性	83	78	94	70	73	70	70	68	70	66	72	68	77	70
	3-③	集団行動を通じての協働活動	87	96	91	69	77	78	77	70	76	79	79	83	81	79
	3-④	集団への奉仕の意識									84	81	77	86	80	83
	3-⑤	授業中の運動量の確保	100	91	99	85	92	83	89	86	84	92	82	91	90	88
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	93	93	94	82	86	83	89	78	77	84	77	81	85	83
	3-⑦	外遊びの習慣化	70	90	79	80	67	77	62	65	41	63	45	51	59	70
学校	4-①	楽しい学校生活	93	91	90	81	80	72	70	78	75	78	76	83	81	80
	4-②	自己有用感の確立	82	85	81	74	64	64	46	60	57	54	61	48	65	64
	4-③	他者への思いやり	82	82	87	77	67	77	80	78	82	78	74	86	79	79
	4-④	素直な態度	90	84	85	77	85	72	87	77	82	80	77	80	84	78

肯定的意見の割合が90~100

肯定的意見の割合が80以上